

●なぜ飢餓が起こるの？●

その1

世界には食べ物が足りないのでしょうか？

いいえ、食べ物は十分にあります。

たとえば、穀物だけでも、今、世界では一年間で19億トンも生産されています。これを世界の人口63億人で均等に分けると、一人当たり約300キロです。人が健康を維持していくために必要な穀物は、年間150～180キロですから、穀物だけでも世界中の人が生きていくのに必要な量の2倍近く生産されているのです。



●なぜ飢餓が起こるの？●

その2

自然災害や戦争が原因ではないでしょうか？

いいえ、災害や戦争は大きな打撃を与えるものではあっても、根本的な原因ではありません。

「飢餓が原因で亡くなる人」のほとんどは、目の前に食べ物がないための餓死ではなく、食べ物はたくさんあるのに、貧しさのために食べ物を買うことができず、やがて体が弱って何らかの病気で亡くなる人たちなのです。



●なぜ飢餓が起こるの？●

その3

子どもを産みすぎるから、飢餓になるのでしょうか？

いいえ、飢餓に苦しむから子どもを産むのです。

開発途上国の貧しい人たちにとって子どもは大切な働き手です。でも貧しいために病氣にかかりやすく、せっかく生まれても、幼いうちに死んでしまうことが多いのです。ですから、たくさんの子どもを産むのです。生き延びるために子どもがどうしても必要だからです。



●なぜ飢餓が起こるの？●

その4

働かないから貧しいのではないのでしょうか？

いいえ、働きたくても仕事がないのです。

開発途上国の多くの国々では、一握りの地主がほとんどの土地を所有して、土地のない農民たちを低賃金で雇ってきました。農地がないため農民は自分たちの食べ物を作ることできません。仕事を求めて都会に出ても、仕事を得ることはとても難しいのです。



●飢餓の本当の原因は…●

その1

世界の穀物の大半は、私たちの食べる肉をつくるための家畜のえさになっている

世界の穀物は皆が食べるだけ十分にあるはずなのに、世界人口の5分の1が住む日本やアメリカ、ヨーロッパなど工業先進国と呼ばれる国々で、世界でとれる全穀物の40%が消費されてしまっています。しかもその半分近くは、牛、豚、鶏など家畜のエサになってしまっているのです。

日本の私たちは60年前（第二次世界大戦前）と比べると肉類は13.5倍食べるようになっていきます。私たちがやわらかくておいしい肉を食べるためには、家畜のえさとしてたくさんの穀物が必要なのです。（世界で飢えに苦しむ人たちはあと150gの穀物があれば助かると言われています。）



●飢餓の本当の原因は…●

その2

日本は世界最大の食糧輸入国

また、日本では私たちの食べ物の半分以上は外国から買ってきたものです。（日本のカロリー自給率は40%、穀物の自給率は28%。）この数字は主な先進工業国の中では例外的に低いのです。

国内の穀物自給率は1965年には82%だったものが、1975年には40%、そして現在は28%です。

これは政策上、自国の農業より工業製品の輸出を優先してきたことや、私たちのライフスタイルや食生活が変化してきたこと、その結果として輸入に頼らざるを得ない状況が生じているのです。



●飢餓の本当の原因は・・・●

その3

世界から買った量の3分の1を捨てている日本

日本では年間2000万トン近くの食糧をすてています。
これは、年間食品輸入量の3分の1にあたります。しかも、
捨てられる食べ物の半分以上は家庭から出ています。

食品を捨てた理由

- 1、古くて食べられない。
- 2、賞味期限が過ぎている。
- 3、腐ったりカビが生えたりした。
- 4、少し余った。
- 5、製造年月日が古い・・・・・・・・。

手もつけられずに捨てられている
食品も多いことがわかります。

世界では、一日2万5000人もの人が
飢えが原因で死んでいるのです。

